

# トヨタカローラ中京

KUO  
GROUP



## SUPER FORMULA **LIGHTS** RACE REPORT

Rd.6/Rd.7/Rd.8 @Sportsland SUGO

TEAM  
**TOM'S**

天候：雨・ウェット / 気温：12-12℃ / 路面温度：14-15℃

全日本Super Formula Lights選手権のドライバー達は、木曜日から各サーキットで練習走行を開始し、土曜日の予選、そして決勝のレースに備える。第6戦から第8戦の舞台となるスポーツランドSUGOの木曜日、金曜日は秋本番を感じさせる中、コースコンディションはドライ。カロラ中京 Kuo TEAM TOM'Sの36号車を駆る宮田莉朋は、金曜日のセッションで非公式だがコースレコードを2回更新し、好調さをアピールしていた。しかし土曜日の未明から雨が降り、午前中に行われた予選は一変してウェットコンディションとなった。宮田とチームメイトで37号車の小高一斗は共に低い路面温度のコンディションでタイヤのウォームアップに苦しみ、宮田は第6戦、第7戦の決勝を2番手、小高は3番手グリッドからスタートすることとなった。



- 小雨の降る中、9時35分から30分間の予選が開始された。このセッション中に記録されたベストタイムで第6戦、セカンドベストタイムによって第7戦のスターティンググリッドが決定される。第8戦のグリッドは、第6戦の決勝結果で決定される。
- 宮田はコースイン後、計測3周目に1分28秒469を記録してその時点でトップに立った。ウェットコンディションでも期待が膨らむ状況に見えた。その後1周タイヤをクールダウンして再アタックし、28秒523を記録した。
- しかし、その直後に最大のライバル阪口晴南選手が1分27秒台に突入、そして一気に26秒台へとタイムを伸ばした。
- 宮田は、ピットインして2セット目のレインタイヤを装着、タイムアップとポールポジション奪取に向けて大きくセットアップを変更してコースイン。今度はウォームアップの周回を増し、計測5周目に28秒台へ突入、6周目に28秒546を記録して予選を終えた。
- 小高は、ピットイン後もタイヤを交換することなく、セッティングの変更だけを行って再びコースインし、28秒台に突入すると3周連続して28秒台のタイムを叩き出した。



Driver

Car No.

Qualifying for 6

Qualifying for 7

宮田 莉朋	36	P2 1'28.469	P2 1'28.523
小高 一斗	37	P3 1'28.684	P3 1'28.811

天候：雨・ウエット / 気温：12-12℃ / 路面温度：14-15℃



36 / ドライバー

宮田 莉朋

雨、ウエットにおける課題がまだあります。他のカテゴリーではウエットでも遅いということはないし、雨が不得意ということもないのですが、Super Formula Lightsに乗るとタイムが出せない状況に陥ってしまい、マシンのセットアップの面でも良くない部分が出てしまっているかなと思います。ライバルのタイムと比較して最大1.6秒離されてしまっている。それでも2番手に位置することができていて、これは、不幸中の幸いかなと感じています。トップタイムの阪口晴南選手とチームは、昨シーズンも雨、ウエットで速かったので、ボクたちが到達していない何かを得ているのではないかと思います。今回の予選はもう終わってしまいましたが、今後雨の状況で今回のようなことがないように現状を打破したいです。2セット目のタイヤに変えるとき、同時に大きくセッティングを変更してもらったのですが、あれだけ大幅にセッティングを変更してもグリップ感の無さは1セット目と変化はなかった。ということは、根本的な部分で原因を見つけないとダメなんだなと。路面温度もかなり低く、タイヤのウォームアップもよくなかったです。



37 / ドライバー

小高 一斗

練習走行のドライ路面ではユーズドタイヤはかなり良い感触だったのですが、ニュータイヤでアンダーステア傾向に行ってしまう、岡山でつかみかけたことが活かせなかったですね。予選は雨、ウエットになってしまい、このマシンでウエットを走るのは岡山の練習走行しかないなので、ウエットのデータも少ない厳しい状況で、トップの阪口晴南選手から大きく差をつけられている状況となってしまいました。もし決勝が雨、ウエットなら何か大きくセットアップを変更し、ドライビングも変えなければならないですね。そうしなければ、2秒の差は縮まらないと思います。ウエット状況では、ドライビングで改良できると思う部分があるのですが、それにトライしきれなかった。できていれば少なくとも莉朋選手との差は縮められたと思うので、今回の予選結果は本当に悔しかったですね。タイヤの温めに時間がかかり、内圧も充分に上がってくれない状況だったので、ピットインしてニュータイヤを装着しないで、そのまま再びコースインしましたが、タイムアップできたのはタイヤの状況が良かったからだと思います。

天候：雨・ウエット / 気温：12-12℃ / 路面温度：14-15℃



チーフエンジニア

吉武 聡

前日からコンディションが一変してしまい、雨そしてウエット。雨量はあまり多くないので、基本的にはドライセッティングがメインでウエットセッティングに少し振った状態で予選に臨んだのですが、十分満足なグリップを得られなかったことが原因でポールポジションを獲得することができませんでした。予選が終わった時点ではどこに問題があるのか、はっきりとした原因が把握できていない状況ですね。宮田は1セット目のタイヤから2セット目に交換した時にかなりセッティングを変えました。1セット目でグリップ感が無いというので、マシンの前後の車高、ウイングの角度、ロールバーも変更してなんとかグリップを得ようとしたのですが、それだけのことをしても感度がなく、変化を感じることもできず、結果としてタイムアップは叶わず予選を終えてしまいました。タイヤに熱が入らない、発熱してくれないので困りました。小高も同じような状況だったのですが、彼にはピットイン後ニュータイヤをセットせず、ウイングの調整だけでコースインさせましたが、何とか28秒台に突入させて3番手を得たというところですよ。



監督

山田 淳

ウエットとなり、路面温度もかなり低かった所以对処するべくセットアップしてコースへ送り出したのですが、思うようには行きませんでした。タイヤがグリップしてくれなかった原因は、ある程度予測していますが、それを予選中に対応できませんでした。ポールポジションを獲得した阪口晴南選手は、ウエットコンディションを得意としているドライバーで、我々よりもタイヤを発熱させるセッティングを施すことができているのでしょうか。宮田、小高のセッティングは基本的に同じなので、当然ポールポジションを狙っていたのですが、阪口選手には大きく離される結果となってしまいました。今回も雨での弱さを露呈してしまいました。これを打開するためには、どこかで徹底的にテストして原因を究明したいと思っています。

天候：曇り・ドライ / 晴れ・ドライ / 曇り・ドライ 気温：12-12℃ / 13-14℃ / 19-19℃ 路面温度：15-14℃ / 23-25℃ / 30-29℃

苦戦を強いられた土曜日の午前中に行われた予選を終えて、Super Formula Lightsはその日の午後に第6戦を行った。雨は上がり路面に所々湿った部分はあるがドライへ変化。セカンドポジションからスタートした宮田莉朋は、スタートでトップに立ち、後続を大きく離して優勝。翌日曜日の午前に行われた第7戦も好スタートを切ったが1コーナーで阪口晴南選手との接触を避けトップには立てず2位、第8戦はポールポジションスタートから優勝を飾った。小高一斗は、第6戦序盤で2位走行の阪口選手に迫る勢いを見せたが、スタート順位のまま3位フィニッシュ。第7戦では、接触を避けた宮田選手が失速、追突を避けてコースオフし順位を下げてしまった。そして、第8戦はスタートポジションをキープして3位をゲットしてレースを終えた。



- 第6戦のスターティンググリッド、セカンドポジション前方、イン側の路面は乾いていたが、アウト側ポールポジション前方は湿った部分があった。宮田莉朋は路面を蹴って好スタートを切ったが、阪口晴南選手はホイールスピンを起こして出遅れた。
- 宮田は、1周目から2秒の差を築いてホームストレートに戻ってきて、その後も周を重ねる毎に2位との差を広げて約10秒の大差で優勝。このレースで唯一1分12秒台に突入してファステストラップタイムを叩き出した。
- 宮田は、第7戦でも好スタートを決めて阪口選手に並んで1コーナーへ侵入して行ったが、阪口選手が牽制してきたためにイン側縁石に乗り上げて失速。トップに立つことはできなかった。これを避けようとして後続が混乱、その一台が小高だった。小高は他車との接触を避けてアウト側にコースオフ、順位を下げてしまったが5番手に順位を戻してフィニッシュ。
- 第6戦の結果からポールポジションスタートの宮田はポールtoウィン。そして、ファステストラップタイムも獲得している。小高は3位でフィニッシュした。



Driver Car No. Rd.6 / Fastest Lap Rd.7 / Fastest Lap Rd.8 / Fastest Lap

宮田 莉朋	36	P1 1'12.571	P2 1'12.612	P1 1'12.865
小高 一斗	37	P3 1'13.026	P5 1'13.367	P3 1'13.327

天候：曇り・ドライ / 晴れ・ドライ / 曇り・ドライ 気温：12-12℃ / 13-14℃ / 19-19℃ 路面温度：15-14℃ / 23-25℃ / 30-29℃



36 / ドライバー

宮田 莉朋

第6戦は路面も良かったし、チームからの助言のおかげもあり良いスタートが切れました。スターティンググリッドへ向かうまでに念入りにタイヤを温めて、スタートしてからは攻めて走って大きなリードを保って勝てました。第7戦はスタートは良かったのですが、かなり寄せて来たので縁石に乗り上げるしかなくてジャンプ。周りに他のマシンがいなかったので接触、クラッシュはしなくて済みました。もしいたら大変なことになっていた。マシンのバランスも少しおかしくなってしまう、ブレーキもロックしてしまうことがあったのですが頑張って走り切りました。第8戦は、今回初めてポールポジションからスタートできたレース。スタートを決めて勝つ、ファステストラップタイムも出すという強い気持ちで臨み勝つことができました。予選で大苦戦、最初のレースで勝ち、第8戦はポールから勝てた。予選の状況を考えると良く巻き返せたと思います。チームが力強いサポートをしてくれたことがとても大きいです。自分自身、予選を終えて凄く辛かったですが、ウェット、ドライでも前に出たら絶対に勝てるという気持ちを持ち続けてた結果、2勝できました。



37 / ドライバー

小高 一斗

第6戦のスタートポジションはアウト側で路面が湿っていたこともあり、後ろの河野駿佑選手に並ばれてしまったのですが、アウトから何とか前に出て河野選手がすごくフェアなラインで走行してくれたこともあり、3位のポジションを守ることができました。でも序盤は良かったのですが、だんだんとペースが落ちて阪口選手に離されてしまいました。第7戦では、行き場が無く接触を避けたらアウト側ダートに出るしかなくなり、順位を下げてしまいました。一度4位まで順位を戻しましたが、次の周にヘアピンの立ち上がりで縁石に乗ってしまい、シフトアップしなかったのに上がらず、さらにはシフトミスで6位へ下がり、何とか一つ戻してペースを上げたのですが上がらず5位という良くないレースでした。第8戦は、周回毎に一番タイヤのグリップダウンを感じたレースでした。タイヤのグリップが高い時は良かったのですが、ダウンするとアンダーステアが出てしまってペースアップできず、リヤタイヤのグリップダウンが進むと結果的に前後のバランスが良くなってそこで自己ベストタイムが出るという変わったベストタイムの出方をしている。アンダーステアをどうするか大きな課題です。

天候：曇り・ドライ / 晴れ・ドライ / 曇り・ドライ 気温：12-12℃/13-14℃/19-19℃ 路面温度：15-14℃/23-25℃/30-29℃



チーフエンジニア

吉武 聡

宮田の第6戦はラッキーな面もありました。イン側の路面が良かったので蹴り出しが良く、阪口選手はホイールスピンの量が多かったようですね。1周目から良いペースで周回できました。そして第7戦ですが、スタートは良かったのですが、1コーナーでかなり寄せられて、縁石に乗ってジャンプしてしまって前には出られませんでしたね。その際にアライメントが少し狂ってしまっていたようです。宮田の失速で後続がそれを避けようとして、一番とぼつちりを食ってしまったのが小高、完全にダートヘコースオフし順位を落とす結果となりました。1周目は何とか4位で帰って来ましたが、ミスもあり6位まで順位を落としてしまいました。一つ戻して5位。ミスがなければ3位には行けたと思うので残念ですね。第8戦は宮田が順位を守って勝ったのですが、路面温度がかなり上がって、予想以上にタイヤの摩耗が進み、第6戦のように大差をつけて勝つことはできませんでした。タイヤ内圧が路面温度の上昇でかなり上がってしまったようです。小高は各レース、序盤のペースは良いのですが、その後ペースダウンしてしまう。これをどうするかが今後の彼の課題ですね。



監督

山田 淳

予選の不調から宮田が2勝を記録してくれたのは良かったですね。ウェットコンディションの予選はどうしてもなかったですからね。ドライで各決勝が行われたのは幸いでした。第6戦の優勝はスタート直後の路面コンディションの優位性があったラッキーでした。第7戦は、厳しく寄せられて、前に出られなかったのですが、接触することなく引いて、レースを続けられたのは良い判断でした。第6戦で阪口選手が宮田に追いつけなかったのは、セッティングが良く無かったようです。宮田と阪口選手の力関係は、第8戦の状況がそれを示していると判断しています。小高については毎回感じているのですが、速さを持っているのにそれをフルラップ持続できない。レースマネジメントがまだまだ。現状の固定観念を打ち破って一皮剥けないことには次のステージに進むことはできない。前戦の岡山で何かを掴みかけたと思っていたのですが再び出直しですね。期待しているので、頑張ってください。

